



わたしがガマンすれば

年 組 ()

ミサエの学級は、みんな仲良しだ。学校でも一緒に遊ぶし、放課後だって、みんなであそんでいる。

ほかの学級の先生も、「あの学級は仲良しでいいわね。」だなんて、ほめてくれるくらいなのだ。

帰りの会の後、学級委員のソウシがみんなによびかけた。

「おおい、今日はタコツボ公園に4時集合な！」

「今日はドッジボールをやろうよ！」

「いいねえ！」

みんな、楽しそうに受け答えをする。

でも、正直いって、ミサエは乗り気じゃなかった。

もちろん、「この学級がきらい！」というわけではないけれど——。

ミサエは最近、家でギターの練習をしている。新しい曲の練習がしくて仕方がないのだ。みんなと遊んでいたら、ギターを練習する時間がなくなってしまう。

さらにいえば、ドッジボールが全く好きではない。好きではないことに時間を使うのがいやなのだ。

帰り道でも、友達がさそいかけてきた。

「ねえ、ミサエちゃんも行くんでしょ？」

「全員そろそろからこそ、楽しいんじゃないか！」

どうしよう——。でも、みんなの楽しみをうばってしまうのも悪いんじゃないか。ほんの少しだけガマンすれば、それだけでみんなは楽しい思いができるのだ。

ミサエは、「わたしは——。」と言って、だまりこんでしまった。



ミサエは、家でギターをするべきでしょうか。それとも、みんなと一緒に遊ぶべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合っただけ考えたことを書きましょう。
